Part 2

設備・運用費を削減

毎月の通話・通信費を削減した後は、ICT機器の導入・運用コストにも目を向けてみよう。「所有から利用へ」の波は、サーバーやアプリだけでなく、電話やネットワークにも押し寄せている。クラウドサービスを使えば機器購入費だけでなく、保守費や運用負荷の削減にもつながる。

16 内線電話はクラウドかレンタルで

FMCの項でも少し触れたが、内線電話システムを構築する手段にも今では、PBXやビジネスホンを購入するだけでなく複数の選択肢がある。

その1つが、社内にはIP電話機のみ導入し、PBX・ビジネスホンの機能をインターネット経由で利用する“クラウドPBX”と呼ばれるサービスだ。中小企業にとって負担となる主装置導入費用を削減できる。

インターネット接続用のブロードバンド回線と兼用で使える。内線端末が数台規模のユーザーであれば月額数千円で利用可能だ。また、複数の拠点を持つ場合には、クラウドPBXサービスによって拠点間を内線化できる点も魅力だ。

主なサービスに、アジルネットワークスの「アジルフォン」、ブラステルの「Basix（ベーシックス）」、リンクの「BIZTEL（ビズテル）」などがある。アジルフォンの利用料（月額）は端末1台当たり1890円、Basixは4100円（端末3台）からとなっている。BIZTELは、同時通話数3（最大10）・外線番号5のスタンダードプランが月額2万2050円で利用できる。

短期間のみ開設する事務所などでは、PBXのレンタルサービスも有効だ。

キッセイコムテックとターボソリューションズは4月から、IP電話システムのレンタル事業を開始した。IP-PBXソフト「InfiniTalk（インフィニトーク）」をプリインストールしたIP電話アプライアンス、IP電話機に加え、外線収容用のVoIPゲートウェイもレンタルできる。利用料金は月額5万8600円から（サーバー1台、電話機1台含む）。

キッセイコムテックは他に、PCやサーバー、ネットワーク機器やプリンターなど幅広いレンタルサービスを行っており、これらを組み合わせることで、必要なICTリソースを必要な期間だけ導入できる。

17 小規模拠点は携帯だけで内線化

一般に支社や営業所等に内線電話を導入するには、本部拠点のIP-PBXと連携するPBX主装置やリモートユニット等を導入する必要がある。複数拠点をまたいで統一的な内線電話体系が作れるため便利な点も多いが、一方で、事務所の規模が数人程度と小さくとも、回線工事や、機器設置・設定などに相応の費用と時間がかかる。

こうした場合、FMCサービスを導入すれば、拠点に携帯電話を置くだけですぐに本部や他拠点との間で内線電話が利用できるようになる。多数の店舗を迅速に展開する場合など、スピードが求められるケースでは特に大きな効果が期待できる。

インターネット接続も利用する場合には、前項で紹介したクラウドPBXを使ってもいい。回線の開通を待つ必要はあるが、ブロードバンドルーターにLAN経由で電話機をつなぐだけで内線が利用可能になる。